

個人差大きい薬効 病状による変更も

Q 三十一歳、女性。友人が膠原（こうげん）病に対して柴苓湯（さいれいとう）という漢方薬を飲んだところ、調子がよとのこと。私も同じ病気で漢方薬を一年以上飲んでいますが、はつきりした効果を感じません。漢方薬は効く人と効かない人がいるのでしょうか。

A 薬の効果は人によって違う。質問者の病気では発症からの経過、重症度などによって効果が異なる。西洋薬は一律に効くと信じられていますが、西洋薬も実際は効き方に相違がある。薬物は体内では消化器や肝臓などで吸収・代謝を受けるが、個人差が非常に大きい。西洋薬は個人差を無視できるような確実な作用を求めて開発されてきた。

一方、漢方薬は「個人」の自己治癒力を最大限に発揮できるような個別の処方せんや「さじ加減」をして効果をあげるようにしている。漢方医学では、基本的には生体のある部分の異常が全身の機能にどのように波及し、影響しあっているかを総合的に考える。

質問者の場合、関節の痛みとむくみが一番つらい、と書いてあるが、漢方では食欲、睡眠、便通、のどの渇き、冷え、のぼせなどすべてが治療を決めるために考慮される。同じ病気でも人それぞれ処方せんが異なり、一人の人でも状態に応じて薬を変えていく。

一般に病気の性質が複雑で経過が長かったり、西洋薬による治療期間が長く体力が消耗している場合、効果が出にくい傾向がある。